



新興プランテック株式会社

第111期

# 報告書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

石油・石油化学・一般化学・薬品などの幅広いプラントに対して、付加価値の高いメンテナンスおよびエンジニアリングサービスを提供するエンジニアリング能力を備えた“総合プラントメンテナンス企業”です。

## 事業コンセプト

### 提供価値

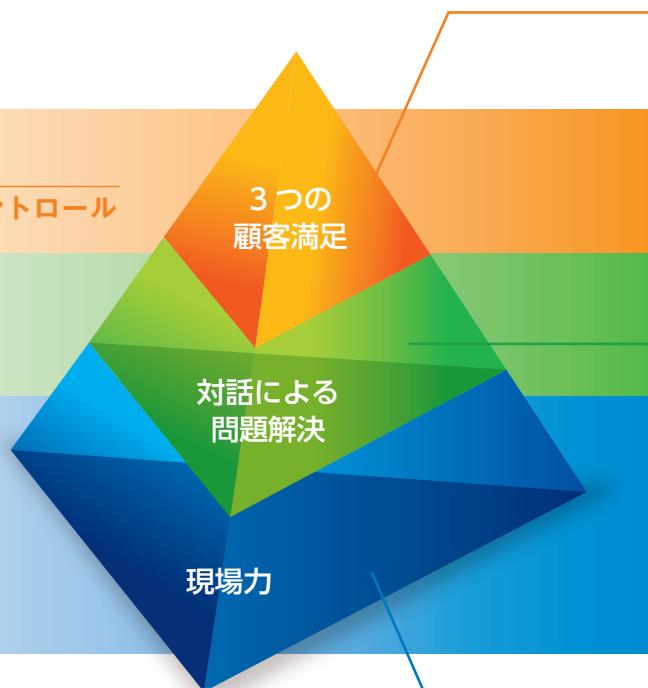
スピード&セーフティ・パフォーマンス・コストコントロール

### 基本姿勢

顧客との対話・現場と本社の連携

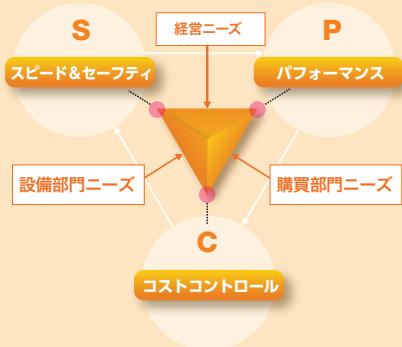
### 強み

監督力・技術力・組織力



One to One Maintenance (ワン・トゥ・ワン・メンテナンス) とは、「お客様のニーズに対して最適なメンテナンスサービスを提供する」という、新興プランテックの事業コンセプトです。そして、この言葉には、お客様と向き合い、末永く信頼関係を築いていきたい、多彩なサービスによって、お客様にさらにご満足いただきたい…そんな意味も込めています。

日常保全工事や定期修理工事などのメンテナンスから、プラントの改造・改修工事まで——私たちは、お客様との対話を重ねながら、“オーダーメイド”のメンテナンス計画をご提案。プラントライフサイクルの最適化を支援し、お客様の高い満足を実現します。



## Value [ 3つの顧客満足 ]

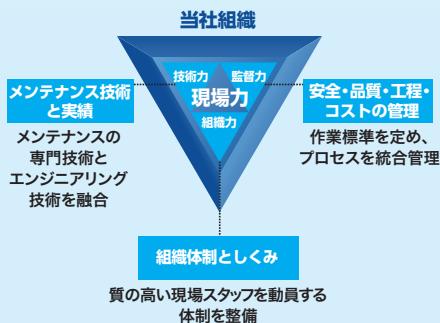
**S**(スピード&セーフティ)、**P**(パフォーマンス)、**C**(コストコントロール)

経営環境の変化、プラントの状態、将来の生産計画などにより、プラントメンテナンスに関する課題は一つずつ異なります。また、メンテナンスに携わるお客様関係者のニーズもさまざまです。私たちは、お客様に提供すべき価値を「3つの顧客満足」と定め、オーダーメイドのメンテナンスサービスを提供し、その実現を追求しています。



## Behavior [ 対話による問題解決 ]

プラントメンテナンス上の課題に最適ご提案をするために、私たちはお客様との“対話”を重視しています。当社の現場監督者が、設備部門、購買部門のご担当者様との密な対話を通じて、メンテナンス上の課題をお客様とすみやかに共有するとともに、本社の技術スタッフと連携し、実情に沿ったきめこまかな提案でお客様のプラントメンテナンスを支援します。



## Competency [ 現場力 ]

プラントメンテナンスには、プラントの実情に的確に対応しうる知見と体制が求められます。私たちは、現場で長年培った専門技術とエンジニアリング技術を融合し、メンテナンスから改造・改修まで幅広く対応できる「技術力」を有しています。また、安全・品質・工程・コストを統合管理する「監督力」、大規模な工事にもお応えできる「組織力」で、確かなサービスを提供します。

詳細な内容につきましては、当社HPをご覧ください。

新興プランテック

検索



## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第111期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

吉川善治

Yoshiharu Yoshikawa

Q

当期の事業環境について  
お聞かせ下さい。

A

投資案件は、年間を通じて抑制基調が  
続きました。

わが国経済は、消費税率の引き上げによる駆け込み需要の反動減や在庫の調整が続く状況での

スタートとなりましたが、年間を通じて大企業を中心に企業収益や設備投資が改善傾向を示し、また、雇用・所得環境も改善し個人消費が徐々に持ち直すなど、全体的には緩やかな回復基調の中で推移しました。

海外経済では、アメリカ経済が底堅く推移したことや欧州経済が回復基調にあることなど、

先進国を中心として緩やかな回復傾向にありました。

当社グループの主要顧客においては、国内需要の低迷や急激な原油価格の下落などの影響で、厳しい収益環境に置かれ、メンテナンス投資およびプラント建設投資は、年間を通じ抑制基調が続きました。

また、石油業界では「エネルギー供給構造高度化法」への対応による設備削減や石油業界再編・提携が徐々に具体化するとともに、石油化学業界においてもエチレン設備をはじめとする過剰設備の廃止・不採算事業の撤退、新たな成長分野への投資など競争力強化に向けた計画を進展させました。

投資、精製能力の削減や設備廃止に伴う改造・改修工事などの投資需要の受注確保に努めた結果、連結ベースの業績としましては、受注高(エンジニアリング業)は前期比5.6%増の863億7千4百万円となりました。完成工事高は前期比11.8%増の852億4千1百万円となっております。

完成工事高の内訳は、エンジニアリング業といたしましては、石油・石油化学関係で648億1千9百万円、一般化学・薬品・食品・電力等の一般工業関係で202億4千6百万円となりました。

当社グループの損益面におきましては、経常利益は前期比13.6%増の50億6千3百万円、当期純利益は前期比18.2%増の30億6百万円となりました。

当社グループのうち、当社単体の業績につきましては、受注高は前期比10.9%増の817億2千3百万円、完成工事高は前期比14.0%増の797億8千9百万円、経常利益は前期比17.7%増の44億3千3百万円、当期純利益は前期比16.7%増の25億7千9百万円となりました。



当期の業績について  
お聞かせ下さい。

A

厳しい事業環境ではありましたが、  
増収増益となりました。

プラント市場の全体的な縮小傾向や同業他社との競争が激化する事業環境の中、当社グループは、当期において前期(平成26年3月期)よりも増加した定期修理工事やプラントの老朽化対策・事故防止対策・安定稼働のためのメンテナンス

事業セグメント別の完成工事高内訳

(単位：百万円)

完成工事高	第111期 (平成27年3月期)	第110期 (平成26年3月期)	前期比 (%)
エンジニアリング業	85,065	76,089	11.8
石油・石油化学関係	64,819	58,272	11.2
一般工業関係	20,246	17,817	13.6
その他の事業	176	185	△ 5.0
合計	85,241	76,275	11.8

工事種類別の完成工事高内訳（その他の事業分を除く）

(単位：百万円)

完成工事高	第111期 (平成27年3月期)	第110期 (平成26年3月期)	前期比 (%)
エンジニアリング業	85,065	76,089	11.8
日常保全工事	22,107	22,511	△ 1.8
定期修理工事	33,458	29,661	12.8
改造・改修工事	22,926	17,882	28.2
新規設備工事	6,573	6,034	8.9



製品の需要減少や国際的な競争環境の中で収益環境も厳しく、これまでと同様にメンテナンス費用および設備投資の抑制基調は続くものと思われます。しかしながら、プラントの老朽化・事故防止・安定稼働などのプラント強靱化対策工事や精製能力の削減や設備廃止に伴う改造・改修工事、コンビナート連携による新投資工事、競争力のある製品生産のための新規プラント建設工事などが期待され、当社グループといたしましては、受注確保を最優先に業績の確保に努めてまいります。

また、当社グループは、平成25年度に策定した「第5次中期計画－事業ポートフォリオ変革に向けた更なる取組」に基づき、「既存顧客に対するメンテナンスシェア拡大」「新規分野・新規顧客の開拓」「海外事業の基盤強化」の事業戦略目標の達成に向け、各種諸施策を実施しております。最終年度にあたる次期においても目標達成に向け鋭意努力してまいります。

Q

次期の事業環境は  
いかがですか。

A

新たな投資工事やプラント建設工事が  
期待されます。

当社グループの主要顧客であります石油・石油化学業界につきましては、依然として国内の石油

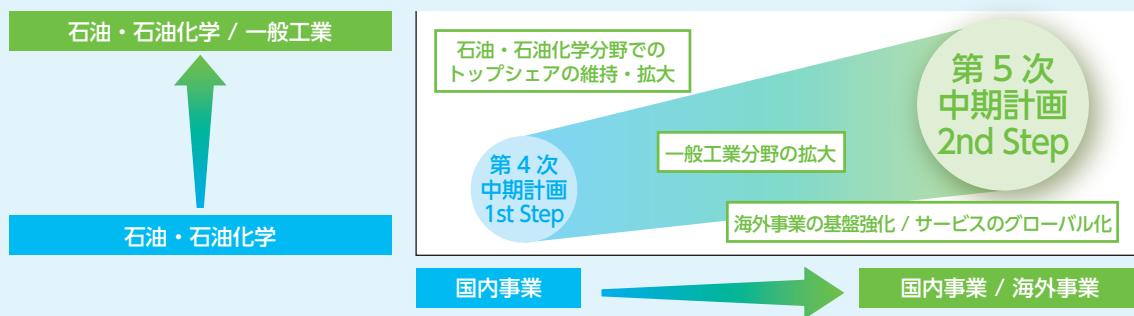
## 第5次中期計画 概要

## ① 経営理念と経営ビジョン

## 経営理念

高度な品質のメンテナンスおよびエンジニアリングの提供を通じて永続的に発展し、顧客の生産性の向上に寄与するとともに、社会の繁栄ならびに地球環境の保全に貢献する。

## 事業ポートフォリオ変革に向けた更なる取組



『全ての設備に対応できるエンジニアリング能力のある「総合プラントメンテナンス企業」』を目指し、「事業ポートフォリオの変革」に向けた第2ステップとして位置づけ、次の経営ビジョンを掲げ展開していきます。

## 経営ビジョン

事業コンセプトとして「One to One Maintenance」を掲げ、お客様のニーズに対して安全・安心で高品質な最適のサービスを提供することで、社会・顧客から信頼、満足される企業を目指します。

コア事業であるメンテナンスにおいては、石油・石油化学分野でトップシェアを維持していくとともに、その他一般工業分野での事業を拡張し、あらゆる設備に対応できるエンジニアリング能力を備えた「総合プラントメンテナンス企業」として、成長し続けてまいります。

中国および東南アジアを中心とした海外事業の基盤強化に継続して取り組み、国内と同様のサービス提供によるグローバル化にチャレンジしてまいります。

## ② 事業戦略目標と業績計画

### 事業戦略目標

#### ① 既存顧客に対する

##### メンテナンスシェア拡大

- 既存顧客における工場内での仕事幅の拡大
- 顧客動向、設備計画に対応した改造・新設工事等の受注拡大

#### ② 新規分野・新規顧客の開拓

- 過去取引のあった分野・顧客の掘り起こしによる受注拡大
- 未参入地区、未参入工場に対する営業の強化と受注獲得
- エンジニアリング能力・技術を活用した改造・新設工事等の受注拡大
- 食品、ガス(LNG)、電力分野を重点攻略分野とした受注拡大

#### ③ 海外事業の基盤強化

- 中国、東南アジアを中心とした中小型のEPC案件の受注獲得
- 海外メンテナンス事業への本格参入・展開を目標とした戦略案件の受注獲得
- 海外拠点の整備およびプロジェクト運営体制の強化による海外事業の拡充・安定化

### 業績計画

2015年度（平成28年3月期）は、第5次中期計画の最終年度にあたり、目標達成に向け鋭意努力してまいりますが、プラント市場、顧客環境、競争状況などを踏まえ、第5次中期計画の設定当初に掲げた2015年度（平成28年3月期）の「業績計画」について、次のとおり修正いたしました。

#### 第5次中期計画(2013年度～2015年度) 連結業績計画

	1年目	2年目
	2013年度実績 (平成26年3月期)	2014年度実績 (平成27年3月期)
受注高	817億円	863億円
完成工事高	762億円	852億円
営業利益	42.8億円	46.2億円
(率)	5.6%	5.4%
経常利益	44.5億円	50.6億円
(率)	5.8%	5.9%
当期純利益	25.4億円	30.0億円
(率)	3.3%	3.5%
配当金	30円	30円

3年目 (第5次中期計画 最終年度)	
2015年度目標 (平成28年3月期) 平成25年5月公表	2015年度見直し (平成28年3月期) 平成27年5月公表
1,000億円	950億円
1,000億円	900億円
82.0億円	52.0億円
8.2%	5.8%
83.0億円	53.0億円
8.3%	5.9%
50.0億円	32.0億円
5.0%	3.6%
30円	30円

修正

# プラントの今を支え、未来への価値を育む。

日々の暮らしに欠かすことができないエネルギーや製品をつくる工場では、さまざまなプラントが休みなく動き続けています。新興プラントックは、そのプラントを安全に稼働させるため、メンテナンスを柱に多様な技術サービスを提供します。当社の3つの事業内容について、ご紹介します。



## Field 1 プラントメンテナンス

### プラントの機能を維持する。

プラントの安全を確保するためには、日々のメンテナンスや定期的な点検が重要になります。当社は豊富な経験と技術力を駆使して、お客様の工場に適したメンテナンスを提供します。

- 日常保全工事
- 定期修理工事



## Field 2 プラント改造・改修

### プラントを再生する。性能を高める。

当社はメンテナンスとエンジニアリングの技術を融合して、生産性の向上、省エネルギー化などを目的とした改造工事、長寿命化対策や信頼性向上のための改修工事を提供します。

- 生産性向上のための改造
- タンク・機器などの改造・改修



## Field 3 プラント建設

### 価値あるプラントをつくる。

中小規模のプラントを主体に、事業計画の支援から完成までのエンジニアリングサービスを一貫して提供し、お客様のニーズに応じた価値あるプラントを実現します。

- 事業計画支援 (FS、FEED)
- EPC業務 (設計・調達・建設)

## Field 1 プラントメンテナンス

複雑な機器やシステムから構成されるプラントは、さまざまな技術の複合体です。当社では現場のスタッフをはじめ、プラントプロセス、各種機器、機械、配管、土木・建築、タンク、電気・計装など各分野の専門技術スタッフが活躍し、お客様のニーズに一貫してお応えできる点を強みとしています。

### 配管

各種プラントやパイプラインなどの配管、バルブ類のメンテナンス

### 回転機械

ポンプ、コンプレッサー、発電用タービンなど、プラントの駆動部となる幅広い回転機械のメンテナンス



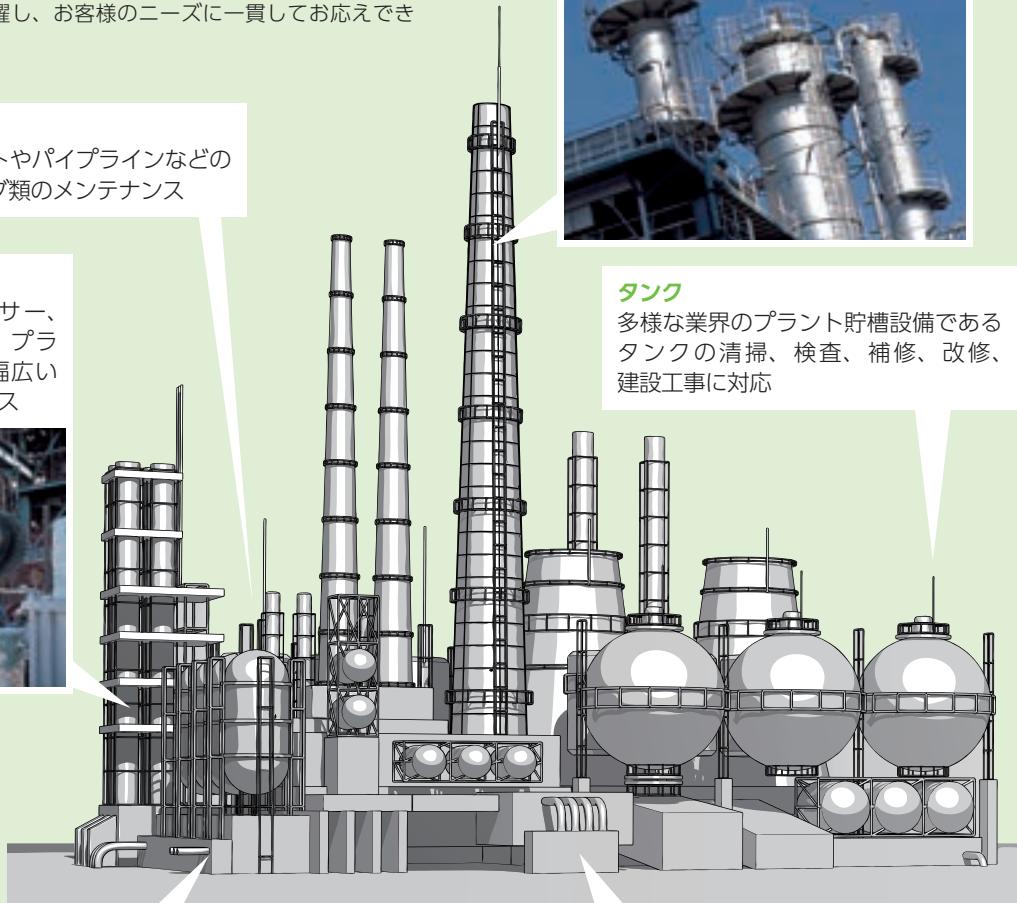
### 機器類

タワー、ドラム、熱交換器、加熱炉などの各種静機器のメンテナンス



### タンク

多様な業界のプラント貯槽設備であるタンクの清掃、検査、補修、改修、建設工事に対応



### 土木・建築

プラントの基礎である土木・建築全般のメンテナンス

### 電気・計装

配電、動力など電気設備や制御システムなど計装機器のメンテナンス

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成27年 3月31日現在)	前連結会計年度 (平成26年 3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>		
流動資産	53,089	44,109
固定資産	16,090	16,380
有形固定資産	11,321	11,592
無形固定資産	189	189
投資その他の資産	4,579	4,597
<b>資 産 合 計</b>	<b>69,180</b>	<b>60,489</b>
<b>負 債 の 部</b>		
流動負債	31,798	25,475
固定負債	1,953	2,117
<b>負 債 合 計</b>	<b>33,751</b>	<b>27,593</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	34,271	32,768
資本金	2,754	2,754
資本剰余金	1,688	1,688
利益剰余金	29,866	28,362
自己株式	△ 38	△ 37
その他の包括利益累計額	666	△ 334
その他有価証券評価差額金	911	518
為替換算調整勘定	△ 234	△ 47
退職給付に係る調整累計額	△ 10	△ 804
少数株主持分	490	462
<b>純 資 産 合 計</b>	<b>35,428</b>	<b>32,896</b>
<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>69,180</b>	<b>60,489</b>

### 連結損益計算書

(単位：百万円)

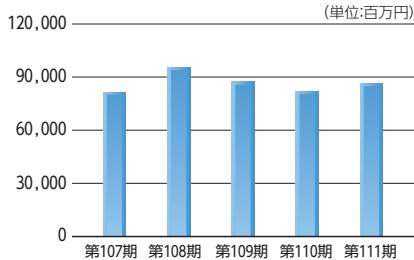
科 目	当連結会計年度 (自 平成26年 4月1日 至 平成27年 3月31日)	前連結会計年度 (自 平成25年 4月1日 至 平成26年 3月31日)
完成工事高	85,241	76,275
完成工事原価	76,886	68,327
完成工事総利益	8,354	7,947
販売費及び一般管理費	3,726	3,667
営業利益	4,628	4,280
営業外収益	623	358
営業外費用	188	179
経常利益	5,063	4,458
特別利益	222	25
特別損失	6	6
税金等調整前当期純利益	5,279	4,477
法人税、住民税及び事業税	2,578	1,917
法人税等調整額	△ 335	△ 74
少数株主利益	30	90
当期純利益	3,006	2,544

### 連結キャッシュ・フロー計算書

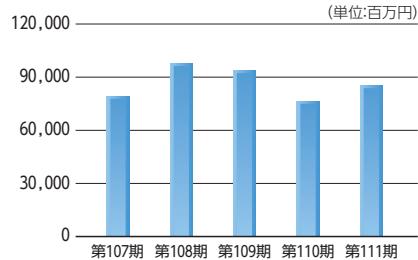
(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (自 平成26年 4月1日 至 平成27年 3月31日)	前連結会計年度 (自 平成25年 4月1日 至 平成26年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,958	2,603
投資活動によるキャッシュ・フロー	361	△ 424
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,435	△ 1,392
現金及び現金同等物に係る換算差額	58	21
現金及び現金同等物の増減額	7,943	807
現金及び現金同等物期首残高	12,260	11,452
現金及び現金同等物期末残高	20,203	12,260

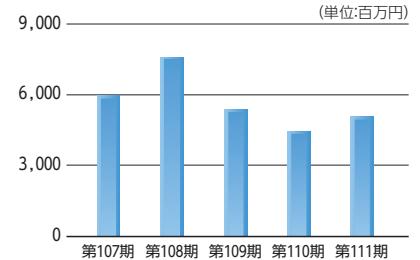
### 受注高



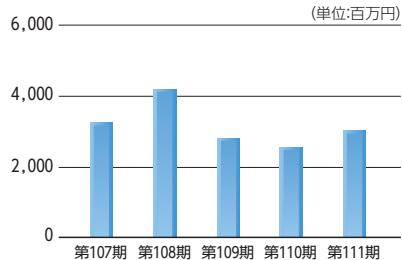
### 完成工事高



### 経常利益



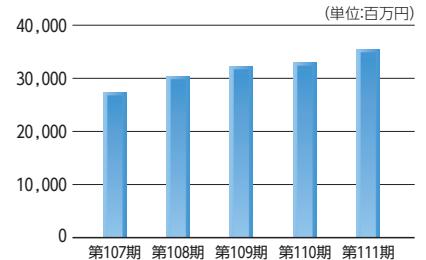
### 当期純利益



### 総資産



### 純資産



(単位:百万円)

	第107期 (平成23年3月期)	第108期 (平成24年3月期)	第109期 (平成25年3月期)	第110期 (平成26年3月期)	第111期 (平成27年3月期)
受注高	81,593	95,906	87,433	81,766	86,374
完成工事高	79,269	97,850	93,845	76,275	85,241
経常利益	5,965	7,589	5,387	4,458	5,063
当期純利益	3,246	4,191	2,808	2,544	3,006
総資産	57,983	74,742	62,110	60,489	69,180
純資産	27,302	30,384	32,226	32,896	35,428

## 概要 (平成27年3月31日現在)

- 商号 新興プランテック株式会社  
Shinko Plantech Co., Ltd.
- 本社所在地 〒235-0017 横浜市磯子区新磯子町27番地 5
- 設立 1938年 (昭和13年) 7月20日
- 資本金 2,754,473,003円
- 上場取引所 東京証券取引所 市場第一部
- 従業員数 連結 1,448名 単体 1,040名

## ネットワーク (平成27年6月24日現在)

- 事業拠点 室蘭(室蘭市)、仙台(仙台市)、新潟(新潟市)、横浜(横浜市)、根岸(横浜市)、鹿島(神栖市)、千葉(市原市)、川崎(川崎市)、川崎TG(川崎市)、東海(静岡市)、名古屋(東海市)、大阪(高石市)、和歌山(有田市)、水島(倉敷市)、岩国(岩国市)、徳山(周南市)
- 子会社 新興総合サービス株式会社 (横浜市)  
新興動機械サービス株式会社 (横浜市)  
エヌ・エス・エンジニアリング株式会社 (横浜市)  
池田機工株式会社 (愛媛県西条市)  
東海工機株式会社 (千葉県市原市)  
株式会社東新製作所 (愛媛県新居浜市)  
PT.SHINKO PLANTECH (インドネシア)  
無錫興高工程技術有限公司 (中国)  
SHINKO PLANTECH (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)

## 役員 (平成27年6月24日現在)

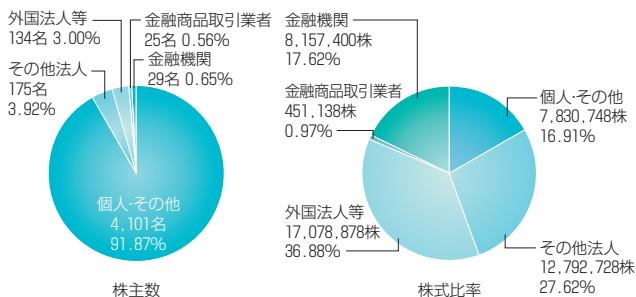
- |                     |      |                   |       |
|---------------------|------|-------------------|-------|
| ●取締役                |      | ●監査役              |       |
| 代表取締役社長<br>執行役員社長   | 吉川善治 | 常勤監査役             | 井手上信博 |
| 代表取締役副社長<br>執行役員副社長 | 大友喜治 | 常勤監査役             | 木原功   |
| 取締役<br>専務執行役員       | 池田俊明 | 社外監査役             | 小松俊二  |
| 取締役<br>常務執行役員       | 鳴瀧宣夫 | 社外監査役             | 布施雅弘  |
| 取締役<br>常務執行役員       | 中沢信雄 | ●執行役員 (取締役兼務者を除く) |       |
| 取締役<br>常務執行役員       | 鰐淵彰  | 常務執行役員            | 森清幸   |
| 取締役<br>常務執行役員       | 山崎一男 | 執行役員              | 久保修二  |
| 取締役<br>常務執行役員       | 山内弘人 | 執行役員              | 杉井士郎  |
| 社外取締役               | 二宮照興 | 執行役員              | 山本光男  |
|                     |      | 執行役員              | 志賀啓介  |
|                     |      | 執行役員              | 福久正毅  |
|                     |      | 執行役員              | 佐藤琢磨  |
|                     |      | 執行役員              | 岡部学   |
|                     |      | 執行役員              | 嵐義光   |
|                     |      | 執行役員              | 関口佳成  |

- 発行可能株式総数 160,000,000株
- 発行済株式総数 46,310,892株 (自己株式 82,038株含む)
- 株主数 4,464名 (前期末比50名減)
- 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
JXホールディングス株式会社	6,100	13.20
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUPPORTFOLIO)	1,712	3.70
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND	1,700	3.68
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,570	3.40
株式会社NIPPO	1,500	3.24
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	1,437	3.11
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE NVIO1	1,411	3.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,279	2.77
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,237	2.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,096	2.37

(注) 持株比率は、自己株式(82,038株)を控除して計算しております。

### ●所有株数別株式分布状況



### 株主メモ

- 決算期 3月31日  
 定時株主総会 6月中
- 基準日 定時株主総会については3月31日といたします。その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
- 配当金受領株主確定日 3月31日および中間配当を実施するときは9月30日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
- (電話問い合わせ) および郵便物送付先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部  
TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
- 公告の方法 電子公告といたします。但し、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法といたします。
- 単元株式数 100株

## Webサイトのご紹介

当社ウェブサイトでは、会社案内、事例・実績紹介、株主・投資家情報など、各ページにおいて、当社に関する情報を掲載しております。ぜひご覧下さい。

### トップページ



### 株主・投資家情報



株主・投資家情報ページでは、業績・財務情報、株式情報、決算説明会資料等のIR資料といった株主・投資家の皆様のための情報を掲載しております。

新興プランテック

検索

<http://www.s-plantech.co.jp/>